

パート3：どうなる？教育現場の「今後」

12) 保守派フィン教育副次官補（レーガン政権）からの見解



チェスター・エヴァンス・フィン Jr.

この20年間、学校に多くの流行や改革が、行ったり来たりしているなか、今後、注目されるのは以下3点にまとめられるだろう。

①チャータースクールと学校選択制

チャータースクールがブランド化の学校チェーンになってきている。KIPP等が多くの州に出現している。チャータースクールは学校選択制の氷山の一角であり、2010年には全生徒の約半分の保護者がバウチャーを利用し、学校を選択している。その中、3人に1人が、ホームスクールや通信制教育を自宅で受けている。今後、学校は校区で割り振られることなく、選択できることがさらに期待できる。

②教員養成と教員研修

現在は、ほとんどが大学で行われているが、民間も参入してくるだろう。州が独自の教員資格を認定しているため、大学にいかなくても民間が提供する代替措置で教員になれる。KIPPのように、独自の教員養成課程もあり、教員の採用・配置を行っている。すでに、営利企業は、学校のデータ構築システム、生徒の個別指導、教員の指導案等を提供しているが、さらに多くなるだろう。

③テクノロジー

教育界にも技術革命が変化をもたらしている。教員研修や生徒の自宅での教育はテクノロジーによって普及される。生徒の学業を追跡したり、教師評価をしたりするシステムもかなり改善され、保護者や学校関係者が生徒の進歩に関する情報へのアクセスが楽になる。ハード面とソフト面で活気に満ちた市場は、いつでもどこでも学習や研修ができるようになるだろう。